慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経営サイバネティックスに関する一考察 - 生命保険会社の例一
Sub Title	
Author	東和雄(Azuma, Kazuo) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1987
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1987年度経営学 第522号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001987-0522

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0522

学生氏名　東　和雄　　主査　関谷　章
副査　鈴木貞彦
所属ゼミナール　関谷　章研　　青井倫一

経営サイバネティックスに関する一考察
― 生命保険会社の例 ―

企業が長期にわたって、その存在を維持し続けていくためには、日々変わりゆく環境に対して、柔軟な姿勢で対応していかなければならない。環境変化への対応は、多くの場合販売チャネルの拡大・新製品の開発導入・コスト優位性の確立といった企業を構成する諸活動の質的、或は量的な拡大を伴なうものである。経営サイバネティックスの言葉を用いれば、これらの諸活動が適切な形で制御されることによって初めて組織は生存可能な状態となる。

当研究はS.ビーアが、組織の制御メカニズムという観点から開発した生存可能システム・モデルに基いて実際の企業に於ける制御システムとはどうあるべきかを検討したものである。

この生存可能システム・モデルは、価値を生み出す単位（生存可能単位）という観点から分類された階層構造を形成しており、各生存可能単位はそれぞれ異なった役割を果たす5つのサブ・システムから構成されている。この生存可能システム・モデルの構築にあたって特に注意すべき点は、生存可能単位という観点からどのように階層構造を設定するか、また各階層に於ける活動を制御するためにはどのような管理モデルを構築すべきかの2つであると思われる。

従って当研究では、先ず対象とする生命保険業界の分析を実施し、管理モデルの構築にはキャッシュ・フロー，負債構成，保険商品のミックス，投資運用利回りなどが重要な要因となることを明らかにした。次のステップでは、生命保険会社に於ける階層構造を設定するために活動内容を分析し、保険活動と投資活動が生存可能単位となることを明らかにし、経営サイバネティックスの観点から、どのような保険と投資活動の制御モデルが推定できるかといった点に関して検討を加えた。